

・ ・ 竹に穴が開いていたら注意！ ・ ・

タイワンタケクマバチ

タイワンタケクマバチは枯れた竹に直径2～2.5cm程度の穴を開けて巣をつくるハチです。元々は中国、インド、台湾に生息していた外来種ですが、既に国内でも広く分布しています。攻撃性の高いスズメバチとは異なり、タイワンタケクマバチや在来種のキムネクマバチなどのクマバチは温厚な性格で、人に対して積極的に攻撃してくることはありません。巣への接近や匂いなどの刺激を与え、クマバチが危険を感じた場合、毒針で攻撃してきます。タイワンタケクマバチの毒性は弱く、腫れる程度とされていますが、アレルギー反応の強い体質の人は、アナフィラキシーショックを引き起こすおそれがあり、屋外の竹柵、竹製品（竹ぼうき、熊手など）に穴が開いていたら注意が必要です。



【特 徴】

- 虫 体 → ハナバチの仲間で、丸みを帯びた体格をしています。
また在来種のクマバチ（黄色と黒の色合い）とは違い、全身が黒色です。
- 活動期 → 4月～9月
- 営 巣 → 水分のない枯れた竹に直径2cmくらいの穴を開け、その中に巣をつくれます。

【応急手当】

- 1 刺された傷口から毒液をしばらく出しつつ流水でよく洗い流す。
 - 2 抗ヒスタミン剤を含んだステロイド軟膏などがあれば塗布する。
 - 3 濡れたタオルなどで冷やし安静にする。
- ※息苦しさ、めまい、おう吐、じんましんなどのショック症状が現れた場合は、一刻も早く救急車などを利用して医療機関を受診しましょう。

【予防対策】

基本的にはおとなしい性格ですが、営巣した竹製品に触れてハチを刺激して刺される事例の相談や報道が続いています。

竹ぼうき、熊手などの竹製品の使用後は、ロッカーや屋内になど片づけ、タイワンタケクマバチが近づくことができないよう管理しましょう。

